

普及情報

分類名〔病害虫〕

情 13

ダイズのおオタバコガに対する各種薬剤の防除効果

宮城県古川農業試験場

要約

ダイズまたは豆類のおオタバコガに登録のある殺虫剤のうち、クロラントラニプロール水和剤、クロルフルアズロン乳剤、BT水和剤（商品名：サブリーナフロアブル）はおオタバコガに対し十分な防除効果がある。

1 取り上げた理由

おオタバコガは、近年県内で発生量が増加している広食性害虫である。ダイズほ場で突発的に多発するが、発生生態に関する知見は少なく、防除対策の確立が求められている。そこで、ダイズまたは豆類のおオタバコガに登録のある殺虫剤のうち、クロルフルアズロン乳剤、クロラントラニプロール水和剤、サブリーナフロアブルで防除効果が認められたことから普及情報とする。

2 普及情報

- (1) クロルフルアズロン乳剤、クロラントラニプロール水和剤、サブリーナフロアブルはおオタバコガに対し十分な防除効果がある（図1）。
- (2) 農薬節減栽培等で成分回数にカウントされないBT剤において、サブリーナフロアブルは有効な薬剤である（図1）。

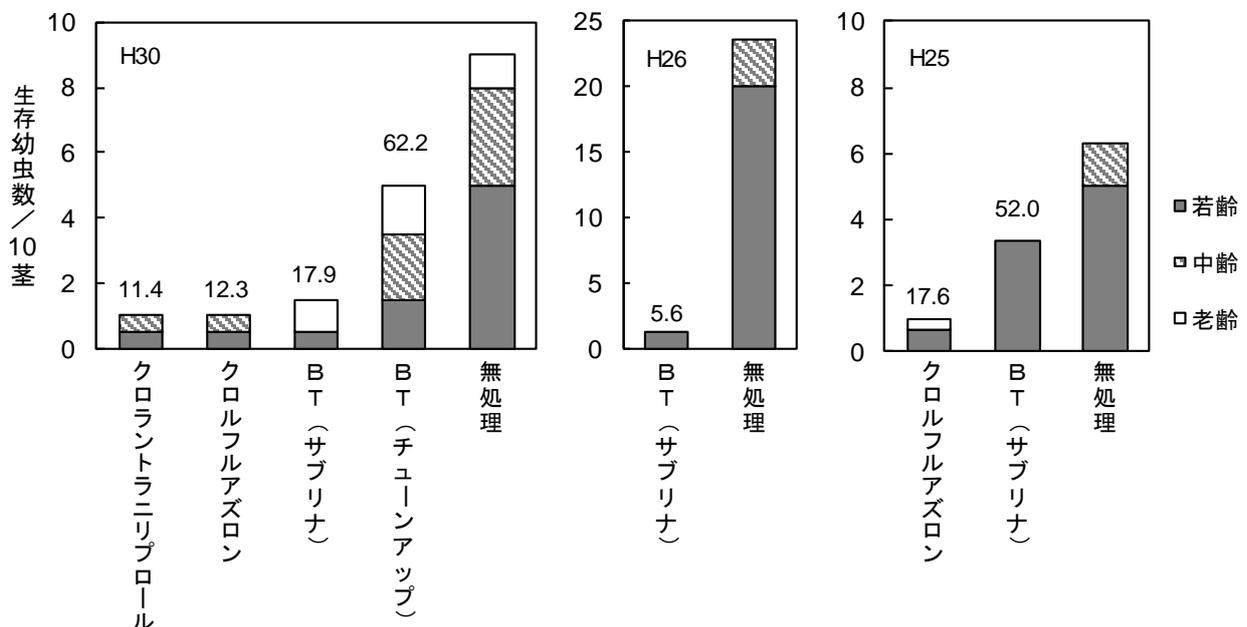


図1 ダイズのおオタバコガに対する各種薬剤の防除効果

注1) 品種・播種日 H30: ミヤギシロメ・6月15日, H26: タンレイ・7月8日, H25: ミヤギシロメ・7月17日

薬剤散布日 H30年8月22日, H26年8月11日, H25年9月10日

散布濃度 クロラントラニプロール: 水和剤4000倍, クロルフルアズロン乳剤: 4000倍, サブリーナフロアブル: 500倍, チューンアップ顆粒水和剤: 2000倍

散布量 H30: 200L/10a, H26: 100L/10a, H25: 200L/10a

注2) 薬剤散布前におオタバコガの卵または幼虫の放虫を行った。

注3) H30年は散布2日後, H25・26年は散布3日後のデータを示す。

注4) 図中の数字は補正密度指数を示す。補正密度指数 = $(Ta \times Cb) / (Tb \times Ca) \times 100$

Ta: 処理区の散布後虫数, Tb: 処理区の散布前虫数, Ca: 無処理区の散布後虫数, Cb: 無処理区の散布前虫数

3 利活用の留意点

- (1) クロラントラニプロール水和剤の商品名は「プレバソフロアブル5」、クロルフルアズロン乳剤の商品名は「アタブロン乳剤」である。
 - (2) 幼虫の齢期が進むにつれ薬剤の効果が低下するため、散布時期を逸さないよう注意する。
 - (3) 薬剤の使用に当たっては、最新の登録情報を確認する（表1，独立行政法人農林水産消費安全技術センタートップページ：<http://www.famic.go.jp/>）
- （問い合わせ先：宮城県古川農業試験場作物環境部 電話0229-26-5100）

4 背景となった主要な試験研究の概要

- (1) 試験研究課題名及び研究期間
 ダイズ病害虫の総合的管理技術の確立（平成30年度）
 新農薬による病害虫防除に関する試験（平成25・26年度）
- (2) 参考データ

表1 ダイズのオオタバコガにおける各種薬剤の使用方法（平成31年1月現在）

薬剤名(商品名)	希釈倍数	使用方法	使用液量	使用時期	使用回数
クロルフルアズロン乳剤 (アタブロン乳剤)	4000倍	散布	100～300L/10a	収穫14日前まで	2回以内
クロラントラニプロール水和剤 (プレバソフロアブル5)	4000倍	散布	100～300L/10a	収穫3日前まで	3回以内
BT水和剤 (サブリーナフロアブル)	500倍	散布	100～300L/10a	発生初期(但し、 収穫前日まで)	—
BT水和剤 (チューンアップ顆粒水和剤)	2000～ 3000倍	散布	100～300L/10a	発生初期(但し、 収穫前日まで)	—

注) サブリーナフロアブルとチューンアップ顆粒水和剤は豆類（種実）で登録されている。

- (3) 発表論文等
 イ 関連する普及に移す技術
 ダイズほ場におけるタバコガ類幼虫の発生消長（普及に移す技術第94号参考資料）
- (4) 共同研究機関
 なし